

平成21年度 第1回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成21年7月21日(火)  
午後2時00分～午後3時45分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 14A会議室
- 3 出席委員 18名  
廣瀬委員長, 熊本副委員長, 田中委員, 小林委員, 九津見委員, 檜山委員,  
櫛淵委員, 山野井委員, 大出委員, 塚田委員, 青木委員, 郷間委員,  
岡村委員, 柳田委員, 石澤委員, 千保委員, 磐井委員, 真壁委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
  - (1) 報告事項
    - ①宇都宮市の社会教育について
    - ②「子ども読書のまち推進事業」について
    - ③(仮称)第3図書館の概要について
    - ④小中一貫教育と地域学校園について
  - (2) 協議事項
    - ①平成21年度栃木県社会教育委員協議会評議員の選出について
    - ②宇都宮市図書館協議会委員の選出について
    - ③第51回全国社会教育研究大会への参加について
    - ④平成21年度関東甲信越静社会教育研究大会への参加について
    - ⑤宇都宮市教育委員会からの諮問について
- 7 その他
- 8 閉会
- 9 発言の要旨

廣瀬委員長

それでは、会議次第に基づき、本日の議事を進めてまいります。  
報告事項が4件、協議事項が5件ございます。  
まず、報告事項①「宇都宮市の社会教育について」を事務局から説明願  
います。

事務局 【説明】

廣瀬委員長 ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問があればお願いいたします。

塚田委員 宮っ子ステーション事業について、あまり進んでいないような気がしますが、どのような対策を行っているのでしょうか？

事務局 宮っ子ステーション事業につきましては、平成19年度から設立に向けた取り組みを行ってまいりました。平成21年4月1日現在では、3校（陽南小・陽光小・晃宝小）の実施となっておりますが、その後も各学校に働きかけた結果、現在ではこの3校の他に、新たに2校（今泉小・富士見小）立ち上げることができました。他にも、西小学校など、これから始まる予定のところもございます。今後とも、順次立ち上げに向けて努力をしていきたいと考えております。

廣瀬委員長 進捗状況は、事業が順調に拡張しており、資料に記載の3校以外にも、現在新たに2校立ち上げられたということです。

塚田委員 よろしいでしょうか。

廣瀬委員長 他にございませんでしょうか。

事務局 それでは、報告事項②『子ども読書のまち推進事業』について」を事務局から説明願います。

事務局 【説明】

廣瀬委員長 ただいまの説明につきまして、何かご意見・ご質問はございますか。

事務局 よろしいですか。それでは、宇都宮市の読書のまち推進のため、効果的な事業を展開していただければと思います。

廣瀬委員長 それでは、報告事項③「(仮称)第3図書館の概要について」を事務局から説明願います。

事務局 【説明】

廣瀬委員長 ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問はございますか。

事務局 よろしいでしょうか。立派な図書館ができるようです。では、この件につきまして、以上でよろしいかと思ます。

廣瀬委員長 つきまして、報告事項④「小中一貫教育と地域学校園について」を事務局

局から説明願います。

事務局

【説明】

廣瀬委員長

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問はございますか。  
非常に画期的な政策だと思います。よろしいですか。それでは、報告事項につきましては、以上とさせていただきます。  
続きまして、協議事項に入ります。  
協議事項①「平成21年度栃木県社会教育委員協議会評議員の選出について」を事務局から説明願います。

事務局

【説明】

廣瀬委員長

社会教育委員から1名の選出ということです。事務局の方では、何か案はございますか。

事務局

【事務局案（廣瀬委員長を推薦）説明】

廣瀬委員長

では、私がやらせていただくということでよろしいでしょうか。

一同

異議なし。

廣瀬委員長

それでは、よろしく願いいたします。  
続きまして、協議事項②「宇都宮市図書館協議委員の選出について」を事務局から説明願います。

事務局

【説明】

廣瀬委員長

こちら、社会教育委員から1名の選出ということです。事務局から案はございますか。

事務局

【事務局案（郷間委員を推薦）説明】

廣瀬委員長

郷間委員にお引き受けいただきたいということですが、いかがですか。

郷間委員

力不足かも知れませんが、一生懸命やらさせていただきます。

廣瀬委員長

ありがとうございます。よろしく願いいたします。  
それでは、次に協議事項③「第51回全国社会教育研究大会への参加について」と④「平成21年度関東甲信越静社会教育研究大会への参加につ

いて」を、事務局から説明願います。

事務局 【説明（事前に全委員へ実施した参加希望調査に基づき、全国大会に山野井委員と真壁委員、関東甲信越静大会に廣瀬委員の参加を提案）】

廣瀬委員長 この大会の参加について、ご異議がなければこのようにさせていただきたいと思えます。

大会に参加後は、この会議でそれぞれ報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項⑤「宇都宮市教育委員会からの諮問について」でございませう。これが一番大きな議題だと思えます。事務局から説明願います。

事務局 【説明】

廣瀬委員長 確認いたしますが、2年間で答申すればよろしいでしょうか。

事務局 現在、スケジュールとしましては、来年度、平成22年度の5月から6月くらいに答申をいただければありがたいと考えておりますが、答申は、あくまで皆様のご議論の結果ということですので、必ずしもそれまでに、ということではなくて結構です。皆様のご意見・ご提言によって、時期も変わってくるかと思えます。

廣瀬委員長 了解いたしました。

一番大きな課題を諮問いただいたように思えます。地域で一生懸命子どもの教育のために汗を流しているのは大人ですが、一方で、給食費を払わないなど問題になるのも大人です。宇都宮市の生涯学習政策の流れの中で、子どもの教育や家庭教育と言いつながら、実は、大人の意識変革が一番重要だと、改めて確認できたのだと思えます。

本日参加していただいた皆様に、大人の問題について、意見交換していただく時間をとりたいたと思えます。

最初に、清原南小学校魅力ある学校づくり地域協議会地域コーディネーターの柳田委員、周りに一生懸命やっつくださる地域の大人がいらっつゃると思えますが、そのような現状について、ご意見をお願いいたします。

柳田委員 私は地域コーディネーターとして、学校と地域のみなさんをつなぐ役割を担つております。実際、学校へ気軽に入つてこられるのは保護者で、出入りも多いのですが、保護者以外の地域の方々の中にも、何らかの形で学校に協力したいと考えている方が、かなりいらっつゃることがわかりました。そこで、昨年度は学校支援として、授業を手伝う学習支援を中心にボランティアを募つたのですが、例えば家庭科のミシンの実習など、簡単な

ことから多くの方が学校に入ってくれるようになりました。その他も学校全体のことなど、地域の方々が入りやすいように計画したところ、かなりご協力いただけるようになりました。

このような経験からわかったことは、学校は、自分たちのもの、地域のものである、という意識が強く、何らかの形で学校に入りたいという方が多いということです。そのような方々の力を借りないでいるのはもったいないと、今思っているところです。

廣瀬委員長

地域においてコーディネーターがボランティアを募集すると、地域性が明確に出ますね。地域学校園の構想もそうですが、地域の方が学校運営に参画するということは、地域の人達のレベルが問われます。地域の人達の教育に関する意識が、そのまま学校に反映するということです。地域の人達や保護者の方々が、教育的な見識を高めていかなければ、学校に参画しても、逆に学校を混乱させるだけということになりかねません。

柳田委員は、学校支援ボランティアを通じて、地域の大人が育っていく、変わっていくというプロセスに立ち会っているのだらうと思います。

では続いて石澤委員、親学習プログラムの指導者として実際に親学習に関わってみて、宇都宮市の親についてどのようなイメージを持たれましたか。

石澤委員

親学習プログラムを実践させていただく中では、気づきも多く、柔軟性もある親が多いと感じております。機会があれば、他の方とうまくコミュニケーションを取って、自分の意見も言いつつ周りの意見も聴くことができる、そのような方が多いということを感じているところです。

廣瀬委員長

宇都宮市の親も捨てたものじゃない、ということですね。

このような声が石澤委員から出ていますが、PTA会長の青木委員、いかがですか。

青木委員

今、お話を聞いておまして、自分も保護者でありますし、地域の一員として関わっていかなければならないということも感じております。

保護者の中でマイナスの影響を与えるという方は、ほんの一部分なのですが、そのような方々の影響力が大きいのかなと思います。良いことをやろうとしていても、プラスのことを広めるにはマイナスのこと以上のエネルギーが必要ですので、マイナスの影響を与える一部分の人のために、全体が悪いイメージを持たれてしまうということもあると思います。

そのために、自分達が何をすべきかと言ったら、地道にコツコツと、私達はこういう良いことができるのだということを、一般のPTAの方に、示していかなければならないと思っております。

先ほどおっしゃられたように、決して悪い保護者ばかりが多いというこ

とではないのです。一部分の方のために、全体のイメージが悪くなってしまっているということが、自分の思っている現状です。

廣瀬委員長

良い親をほめていく、ということがもっと必要かもしれませんね。駄目な親ばかりを取り上げて、トレーニングして直していこうとするだけでなく。

それでは、保育園という早い段階から親の教育に携わっていらっしゃる、磐井委員いかかでしょうか。

磐井委員

こちらの諮問に書いてある通り、我が子かわいさのあまり、自己中心的でモラルのない大人が増えているということは事実だと思います。保育園の場合、保護者が送り迎えをしますので、親と職員がそこでコミュニケーションを取れ、気づかない親にも気づかせるような指導ができます。それが小学校に入りますと、親と学校の関わりが薄くなってしまふ、その段階に少し差があるのかなと思います。なので引き続き、学校へ行っても親への教育を実施することが大切だと思います。

また、地域全体で見守ることの大切さも感じます。共働きで、育成会の活動にも最低限の参加がやっとという親が多いということも、昔とは違うところです。昔は地域の人達で集まる機会があり、子育てについても自然に情報交換できていましたが、今はそのようなお付き合いは少なく、ただ地域の行事に参加するくらいで終わってしまいます。地域で親同士がつながりを持てる機会が、もっと増えるといいと感じます。

廣瀬委員長

地域での問題があるとおっしゃっていただいたこと、重要なことだと思います。

郷間委員、まちづくりの代表として何かご意見はございますか。

郷間委員

私どもは、まちづくりとして様々な催し物を行っています。平石地区市民センターでは、毎月第3水曜日にロビーコンサートを開催していますが、鬼怒中学校のブラスバンドに出演してもらおうと、その保護者の方々も多くいらっしゃいます。そういう中には、今度私達も出てみたい、という人も現れますので、地域で子どもから親へとつながる機会となっており、非常に良いことなのかなと思います。

また、市内の柳田緑地にクロコムラサキが生息しているのですが、地元で柳田緑地クロコムラサキ愛護会を作って、小・中学生を呼んで観測会を行いますと、やはり親も集まりますので、そこで子どもも大人も一緒に、自然を愛でるというような活動をしております。

廣瀬委員長

子どもを媒体として親同士がつながるという機会、それがまちづくりにつながるというわけですね。

それでは学校関係の皆様。九津見委員，日ごろいろいろな親に出会ってきたと思いますが，お考えがあればお聞かせください。

九津見委員

青木委員がおっしゃられたように，世間で言われているような，困った親というのはほんの一握りなのですが，今，大人の二極化が進んでいるのかなと思います。学校の立場をよく理解してくれるバランスの良い保護者がいる一方で，こちらの説明には耳を貸さず，自分の主張ばかりを受け入れさせようという保護者もいます。昔からいろいろな保護者がいましたが，なかなか理解してくれない方が増えてきたように感じます。

それから，理屈はわかっているけど，共働きなどで時間的に協力が難しい保護者の方々もいらっしゃいます。現在は，共働きの親が増えてきたことに伴い，家庭の時間帯が非常に多様化しており，昔のように，昼間働いて夜家にいるという家庭ばかりではなくなりました。片方の親は夜働いて片方の親は昼間働く，土日も出勤するなど，非常に複雑化しております。また，不況のため両親とも職を失ってしまう家庭もあります。現状を把握するといろいろな条件の方がいて難しいのですが，学校・保護者・地域が共にできることを少しずつやっていくことが大切だと思います。

幸いに，こちらの地域では，子ども会活動も盛んですし，地域全体でも，まちづくりに向け本当に熱心に取組が行われていると思います。学校の休み中には，学校のプランターに一生懸命水をあげてくださるご近所の方もいて，地域に学校が守られているということを感じます。

廣瀬委員長

ありがとうございました。続きまして小林委員，お願いいたします。

小林委員

私はこれまで小学校で校長をさせていただいており，その後中学校へ参りまして3年目になります。初めて中学校のPTA総会に出ましたら，役員が20名程集まって会を行っており，一般会員の参加者はいませんでした。小学校ではもう少し多かったのですが，中学校になるとそのような状況なのです。よく研修会など，本当に学んでほしい方には出てきてもらえない，ということが言われますが，残念ながらそれは事実なのだろうと思います。

また，私は小学校で，様々なボランティア活動を受け入れている学校を経験してきました。中学校においても，同じように何かできないかと思い，いくつかの活動を提案し募集しましたところ，保護者だけでなく，地域の方々も積極的に応募してきてくださいました。学校の環境整備，図書館の整備，ブックトークの実施など，中学校への協力者も結構集まるのです。小学校は，学校園として地域でも意識されやすいのですが，実際には，自分は中学校にボランティアとして行ってみたい，という方もいらっしゃるということがわかった訳です。今後中学校についても，小・中学校の魅力ある学校づくり地域協議会をひとつの核として，大いに高めていきたいと

感じております。

それから、親学習プログラムということ为先ほどお話しされていた訳ですけれども、小学校の子どもの家で午前中に行われている乳幼児支援など、小さな子どもを持つ親に対する事業を、ぜひ充実させていただきたいと思えます。子どもを幼稚園や保育園に入れば手厚いサポートが受けられますが、子どもが生まれてから幼稚園や保育園に入れるまで、その時期の親への支援が、今後手厚くなるといいかなと感じております。

廣瀬委員長

ありがとうございました。田中委員、いかがですか。

田中委員

高校の場合、私の学校では、平日のPTA総会でも全体の65%くらい、500名程の保護者の方に参加していただいております。ただ、近年は、敏感な目、厳しい目を持っている保護者の方が増えてきたと思えます。逆に言いますと、それに対して教員がどれくらい誠意ある回答ができるか、教員の力量が問われているようにも感じております。

今回の諮問にもございますが、社会を支える人づくりとは、当然ながら、保護者の方々も、教員も、その中に巻き込んでいくことが大切ではないかと感じます。

廣瀬委員長

重要なお指摘ありがとうございました。

千保委員、今回成人教育にかかる諮問が出された訳ですが、これを答申するにあたって、どのようなところに気をつけていったらいいかという留意点など、お考えを教えてくださいたいのですが。

千保委員

皆様のお話を聞かせていただきましたが、短大の学生についても、状況は似たようなものでございます。素直に学ぶ姿勢の学生がいる一方で、非常に頑固なグループも最近増えておりまして、そのような学生は、自分の主張を頑として曲げません。私どものような福祉分野の教育となりますと、人間の思いやり、支え合い、助け合いのようなものを専門の分野として学ぶ訳ですから、それらを意識的に身につけることを目指してはいるのですが、自己主張の強い学生ですと、教員の話もなかなか聞いてもらえないということが残念ながらあるんですね。

このようなことは、現在の世の中の縮図なのだと感じます。私はこの成人教育という諮問の内容が、本当に大事だと思っております。皆様のお話にもありましたように、ボランティアとして出てきてくれる素晴らしい方々はたくさんいらっしゃいますが、その一方で協力的でない人や、授業料を払わないなどモラルのない人もいます。どうしてそうなってしまったのだろうと感じます。

成人教育というと、年齢も体力も違う、様々な方が対象になってくると思えます。特に高齢者について考えますと、このような学習の機会を持つ



ことで、外に出ること、社会に参加することなども、非常に立派な意味のあることなのだと思います。講座で宇都宮の歴史を学ぶなど、知的な関心を高めることも楽しい訳ですが、それと同時に、活動に参加すること自体や、地域の人と触れ合う機会を持つことなどが、とても大事なことではないかという気がするのです。

廣瀬委員長

ありがとうございました。他に何かある方、いらっしゃいますか。  
大出委員、お願いいたします。

大出委員

近年親学がずいぶん話題となっておりますが、私は25年間、一般社会人を対象とした文章の講座を担当していきまして、今の親の、そのまた親の力の大きさというものを実感しております。

講座にいらっしゃる方のお孫さんなどに、夏休みになりますと読書感想文の宿題が出る訳ですね。読書感想文の書き方を、はっきりつかめないうまま、書いてくるようにと言われるため、読書嫌いになってしまう子どもも多くいます。そこで、講座で読書感想文の書き方をきちんと説明して、おじいちゃんやおばあちゃんからお孫さんに教えていただくというようにしましたら、大変感謝されまして、孫の評価が上がった、という方も何人もいらっしゃいました。

P T Aの会合があるので今日は講座を休みます、というおじいちゃんやおばあちゃんもいらっしゃるくらいですから、私は親学と言わずに、親のそのまた親の力をもう少し重視してはどうかという感じがいたします。

真壁委員

私も大出委員と同じ考えです。駄目な子どもがいると、親の顔が見てみたい、という言葉があります。駄目な子どもというのは、大概親が駄目なんですね。そしてその親がなぜ駄目かという、そのまた親、つまりおじいちゃんおばあちゃんが駄目なのです。

はじめ私は、なぜ今更、成人教育のあり方というものが諮問されるのかと思っていたのですが、皆様の話を聞いていて、やはりその必要性を改めて感じました。学校の現場でも、よくクレイマーがいるようですね。自分のかわいい子どもが、学校でお世話になっているのに、給食費を払わない、授業料を払わない。そういう親のそのまた親に、一体どうなっているのか、と聞きたいと感じます。学校に来ているのだから授業料を払い、給食を食べているのだから給食費を払う、そのような当たり前のことやモラルを、親のそのまた親の世代から、改めて身につけ、継承していくことが大切だと思います。

廣瀬委員長

私も、今の親を育てた世代が、最近の若い親は駄目だと平気で言ってしまう、こういうことが問題だと感じております。

その他にご自由な意見を、何名かいらっしゃいますか。

塚田委員

子ども会に関して言いますと、単位子ども会の場合、1年おきに役員が変わるということもありまして、役員になっている時だけ出て行けばいい、という感覚があります。役員になる前や、終わった後は、もう出てきてもらえません。役員でなくても積極的に前に出る大人を増やす、そういうことも、今回の成人教育につながってくるのかなと思っております。

また、先ほど委員長が、地域で活動されている方の質で、その地域のレベルがわかるというお話をされておりましたが、私も全くその通りだと思います。先日、地域協議会で集まりがあったのですが、どうしてこのメンバーなのかと聞いたところ、前からこのメンバーで活動していたから、とのことでした。上に立って皆を引っ張っていく方々のレベルが、特に地域を活性化していく上で、とても大切なことだと思います。

岡村委員

私の経験からお話させていただきます。先ほど宮っ子ステーションの話がありましたが、私は富士見小学校の地区でして、7月から宮っ子ステーションがスタートいたしました。本当は4月の年度当初から始める予定で準備を進めていたのですが、安全管理員や活動アドバイザーなど、支えてくれる方がなかなか出てこないため、開始が遅れてしまった訳です。

富士見地区の場合、自治会加入世帯約4000戸で、31自治会ありまして、全家庭に回覧で、安全管理員と活動アドバイザーの募集を行いましたが、集まりませんでした。地域の子どものために、放課後のわずかな時間、自分の経験や技能を提供しようと一歩前に出る人がいない。PTAの執行部の中には、うちの子は宮っ子ステーションに参加しないから私も関係ない、と言う人もいました。児童生徒の健全育成は、地域の教育力の向上が大きな課題なのだと感じました。

結局、まちづくり協議会の広報誌や、魅力ある学校づくり地域協議会の広報誌の臨時号を出しまして、事業を実施する目的や課題などについて何度も訴えかけると共に、自治会長会議などでも話をしまして、やっとある程度の人数が集まりました。若い世代はお勤めがあるので仕方ないのかもしれませんが、集まったのは高齢者が中心でした。地域には、素晴らしい技能や経験の持ち主が実は数多くいらっしゃるのですが、そのような人材を発掘する作業がうまくできれば、地域の教育力が高まり、大人同士のコミュニケーションもどんどん深まっていくのだろうと感じております。

また、最近私が感じた、親の問題についてお話いたします。先日、小学校の6年生を主体に、なす高原少年自然の家へ宿泊訓練に連れて行ったのですが、子どもが、自分のバッグに何が入っているのかわからないのです。おそらく、親が全て荷物を準備しているのだと思います。山歩き用の軍手を自分が持ってきているのかもわからず、全部荷物を出してみてもっと見つかった、というような子どもが少なくないのです。親が子どもに手をかけすぎている、という傾向を感じます。もう少し突き放して、子

どもができることは自分でやらせるようにしないと、子どもは成長しないのかなと思います。

廣瀬委員長

岡村委員がおっしゃったことは、まさに成人教育の課題だと思います。では最後に、熊本副委員長から、総括としてご意見をお願いいたします。

熊本副委員長

成人教育や大人について考えていくことは、枠組みが大きく、多くの方が対象になるので、大変難しいかとは思いますが、これから皆様と様々な意見を出していきながら、良い答申をつくれたらと考えております。

その際、留意すべき点としては、こちらで出た意見や考えを、市民の方々へどのように伝えていくのかという、情報伝達の部分がたいへん重要と考えております。子ども、保護者、企業、地域などに対し、つながりのある方には情報をお伝えすることができますが、そのような方はごく一部であって、それ以外の、こちらの意見が届かない方というのも大勢いる訳です。

また、伝わりやすい方というのは、協力的な方、理解的な方が多いと思います。学校や地域においても同じだと思いますが、ある問題を投げかけた時に、協力して積極的に活動してくださるメンバーは決まっておらず、数も限られていますので、一部の同じ方に多くの負担を強いているというのが現状です。

ですから、そういう方以外の方への情報伝達の方法について、よく検討していかなければならないと思います。こちらの会議で考えた成人教育にかかる現状や課題、改善策などを、市民の方々へどのように伝えていったら良いのか、そのようなことについても、皆様と議論ができたらと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

廣瀬委員長

ありがとうございました。充実した良い答申ができるのではないかと予感しております。

その他、特に議案等ございませんか。

それでは、以上で社会教育委員の会議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。